



KFC News

Kobe Foreigners Friendship Center NEWS LETTER

2022. 5. 17

No. 168

法人本部 〒653-0038 神戸市長田区若松町 4-4-10 アスタクエスタ北棟 502
TEL : 078-612-2402 FAX : 078-612-3052 E-mail kfc@social-b.net
デイサービスセンター ハナの会 TEL / FAX : 078-612-2408
グループホーム・小規模多機能型居宅介護ハナ TEL : 078-798-5475・4 FAX : 078-798-5476
ハナ介護サービス TEL : (居宅) 078-646-8671 (訪問) 078-646-8670 FAX : 078-612-3052
ふたば国際プラザ TEL : 078-747-0280 FAX : 078-747-0290

Kobe Foreigners Friendship Center NEWS LETTER

KOBE ウクライナ難民支援活動

4月3日、10日、17日に神戸国際コミュニティセンターとJR新長田駅前広場で行った KOBE ウクライナ難民支援活動は、予定通り3日間の活動が終了しました。学習会、募金、バザー活動ともに多くの方にご参加頂きました。

学習会は全3回で会場、オンライン含め約150名の方にご参加頂きました。「ウクライナ(国内)と周辺国の避難民支援」と「ウクライナの歴史背景」について学び、難民問題全体への理解関心を深めるために「難民の現状と支援のあり方」についても学習しました。

活動には大学生や社会人などたくさんのボランティア(のべ約40名)に参加頂き、回を重ねるごとにたくさんの地域の方にご来場頂き、募金して頂いたりバザー品を購入頂いたりしました。今回の活動で集まったお金約43万8218円はユニセフへ寄付します。

バザーの実施にあたっては新聞やテレビで取り上げて頂いたこともあり、たくさんの方々からお皿や衣服、本、日用品などを送って頂きました。中にはバザーで販売す

るために手作りで絵はがきや巾着袋などを作って送って下さった方々もいらっしゃいました。送られてくる品物に手紙が添えられており、例えば「私は84歳のおばあさんですが、役に立てるように自分で作ったものを送ります。」ということが書いてあり、大変ありがたく感じました。バザー品のご協力を頂いた皆様に御礼申し上げます。

神戸にも、ウクライナから人々が避難してきています。

衣食住から仕事、学校、居場所づくり、メンタルケアなど必要な支援内容が多く想定されます。必要とされることを考えて次の行動に移していこうと考えています。

5月より神戸市・KICCより委託を受け、神戸市に避難してこられたウクライナ避難民の支援にKFCとして取り組んでいきます。

KFC関係者各位のご協力を得られたらと思います。

(大石 貴之)

日本語プロジェクト



◆「やさしい日本語」勉強会を行いました

2022年3月6日(日)と13日(日)、KFC生活日本語クラスの日曜日と木曜日夜間のコーディネーター岡本道代の提案で、「やさしい日本語」の勉強会を行いました。「やさしい日本語」というのは、通常よりわかりやすくした日本語のことです。簡単な日本語なら理解できる人は多くいます。当初は、災害時に情報が得られるように、また適切な行動がとれるようにと考え出されたものですが、今では、日常の役所の手続きや外国人等との意思疎通に幅広く応用されています。

勉強会の時に参考とした本「入門・やさしい日本語(吉開章 著)」の帯にはこう書いてあります。「日本に住む外国人は、英語ができる人より、日本語ができる人の方が多い。」

1日目は本に沿って学習し、2日目は災害時緊急時の言い換えと「医療で用いるやさしい日本語(医療×「やさしい日本語」研究会)」の動画を見て理解を深めました。

参加者は、日頃の支援活動での経験を踏まえながら、和気あいあいと意見を交わしました。練習問題も豊富で即実践に役立つ内容でした。これから、どんどん実践で使用していけると思います。さらに、もっと多くの方に「やさしい日本語」が広まるよう、伝えていきたいです。(奥 優伽子)

KFC日本語ボランティアだより 号外
“ごきげんよう”



「ごきげんよう」はKFC日本語ボランティアのニュースレターです。2014年の初版から今年8年目になります。企画から発行まで日本語ボランティアの有志が当たり、オブザーバーとしてKFCスタッフの奥さんも加わります。

KFC日本語教室では支援者の活動の曜日が様々で、皆が顔を合わせることはありません。そこで、紙面を通してではありますが、支援者仲間で情報交換し、問題を出し合い、交流や知り合う機会につながればと発行へ向けて動き出すことになりました。今までに28号発行し様々な記事がありますが、その中からいくつかを拾ってみました。

・ベトナム寺訪問 学習者の中にベトナム寺のお坊さんがおり、駒ヶ林の和楽寺を訪問した。暗い日本のお寺とは印象が異なり、周りがカラフルで部屋全体が明るく、人々を受け入れてくれるおおらかさを感じた。お寺が町に住むベトナム人の心の支えの場となっていることを知った。

・夜間中学校とはどんなところ? 夜間中学の先生が支援者としても活動されていた時、私たちがよく知らない学校生活(西野分校)についてご紹介していただいた。始業は17時25分で、毎日4時間の授業がある。10代から70代の国籍も年齢も様々な人たちが3年間学ぶ。「学ぶことは生きること」の言葉が強く印象に残っている。

・日本語教室卒業生を訪ねて かつてKFC日本語教室で学んでいた方々はどうされているのだろうとお会いしたり、寄稿してもらったりした。家庭で、仕事場で活躍している姿に出会い、懐かしくまた嬉しい気持ちになった。

今は3ヶ月おきくらいの発行です。企画、検討と発行までかなり時間を要します。以前は教室を借りて検討会の場を持ちましたが、コロナ発生からはオンラインを利用しています。ただ編集メンバー5名のアンテナは限られ、常に課題を抱えながらの活動で

す。それでも学習者と支援者同士をつなぐ紙面になればと願って頑張っています。

蛇足ですが、「ごきげんよう」としたわけは？朝の「連続テレビ小説」からきています。2014年に村岡花子の半生を描いた「花子とアン」が始まりました。劇中、花子の通う女学校で交わされていた挨拶言葉を拝借しました。(岡本 道代)

◆事例発表会

私たちの教室のことで恐縮ですが、コロナ禍の中、日本語教室のやり方に大変頭を悩ませて進めて参りました。皆様の教室におかれましても状況は同じかと思えます。支援者同士の交流機会や研修機会も十分には開かれませんでした。

今回、日本語ボランティア支援者の参考として、「事例発表会」を開催します。交流と研修の機会として、皆様と共に充実した時間を持ちたいと企画しました。

内容ですが、事例は2つ予定しています。一つは日本語学習支援を始められた方からのご発表ともう一つはオンラインでの日本語学習支援をされた方からです。

事例発表の後、参加者同士で話し合う時間をとります。

この機会にぜひご参加いただきますよう、また支援者の方へのご広報の協力をどうぞよろしくお願いいたします。(奥 優伽子)



KFC 日本語プロジェクト
事例発表会
どのように日本語学習支援をしていますか？
支援者同士で紹介し合ひましょう

日時	2022年5月29日(日) 13:30~16:00
内容	支援者に活動例を発表していただき、参加者で共有します。
場所	ふたば国際プラザ(長田区二葉町7-1-18 ふたば学会1-5) または zoom オンライン参加あり
参加費	KFC 会員 無料 KFC 会員外 1000円
申込	右記バーコード または下記に連絡
連絡先	ふたば国際プラザ KFC 日本語プロジェクトまで

Point! オンラインでの実践

Point! 参考例を共有

ふたば国際プラザ TEL: 078-747-0280
受付時間: 10:00~20:00
E-mail nihonngo@social-b.net

多文化子ども共育センター Mol

◆黄色いレシートキャンペーン

ダイエー名谷店の黄色いレシートキャンペーンで、今年度も16197円の食料品のご寄付をいただきました。これは、毎月11日の「イオン・デー」に実施されているイオングループの社会貢献の一環の「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」で、お客さまが受け取った黄色いレシートを地域のボランティア団体名が書かれた店内備え付けのBoxに投函していただくことで、レシート合計の1%の品物をイオンから各団体に寄贈していただける取り組みです。この度は金額相当額のお菓子などを、学習に来ている子どもたちに届けさせていただきました。レシートを入れてくださった皆様、ダイエー名谷店様、誠にありがとうございました。

今年度も引き続き参加させていただけることになっておりますので、ぜひダイエー名谷店をご利用いただき、レシートをKFCの名前のあるBoxにご投函ください！どうぞ宜しくお願い致します。

◆2021年度のはいず（賀川記念館内学習教室）の活動をふりかえって

今年もコロナの感染拡大が収まらない1年でした。感染予防のため、教室型で席を1m以上離し、カルタやコマ回しなど、残念ですが、子ども同士の触れ合いも減らすように声かけをしてきました。

4月20日緊急事態宣言を受けて、解除までまた休みとなりました。ただ、今回は、7月に日本語検定を受験する保護者のSさん、中学3年生で進路指導の必要なSさん、3月に日本にきたばかりで、日本語を勉強し始めていた小学1年生のFさんの3人を継続してみることになりました。この期間に中国に帰った子どももいました。また、ボランティアの学生の方の中にも体調を崩される方が出てきて厳しいものを感じました。

6月11日に再開しましたが、感染者が出たということで、学校は学級閉鎖や学年閉鎖が次々あり、子どもたちの休みも続きました。

子どもたちの学習支援

子どもたちは、日本語の指導と、学校の宿題を中心に学習面での躓きや言葉の課題を支援しています。今年は新たに日本に来た子どもが1年生になった3人だけで、日本語指導よりも学習の中での日本語指導が中心になりました。学校での学習への不安が少なくなり国語や社会なども学習が進むという成果もありますが、やはり一番の課題は、読解問題や地理歴史面での社会科等の知識が少ないことです。また、数概念や九九、計算が苦手な子どもたちもいて、算数の学習を避ける傾向もあり、ボランティアの方の関わり方にも支援が必要でした。

特別支援学級入級の問題から、高校への進学が難しくなることも今回は課題になりました。「個別に丁寧な指導がされる」と言われ、保護者が入級を承諾したけれど、数学や国語英語の教科指導がなくなり、自立支援にその時間が使われ、高校進学に必要な学力がついていませんでした。このような進路の問題を理解することは難しいと思われれます。今回は、課題が見つかった時点で、はいずでの学習と合わせて、中学校の支援学級担任との相談連携のもと中学校でも学習し試験を受けること

ができるようになりました。

またもう一人の中学生は、特別支援学校ではなく友達と地域の中学校へ進学することを選びました。しかし、保護者が校区の問題をよく理解できていなかったこともあり、隣の校区に転居してしまい、転校問題が起きました。このケースも賀川記念館の担当者の粘り強い努力で元の学校に通えることになりましたが、通学距離が遠くなり本人の負担が大きく、通えないことも増えてしまいました。

子どもをとりまく状況と連携相談窓口

改めて保護者との相談窓口や学校との連携が取れること、そのためにも学校と情報交換をする必要があることを痛感させられました。保護者が日本の学校の状況を理解できていないのに、学校側も保護者の理解度を把握できていなかったことが分かってきました。これでは子どもにとっては、さらに困難を負うこととなります。2021年度もコロナの関係もあり、学校訪問が進みませんでした。次年度はぜひ交流を進めたいです。

支援者の確保

支援者の方が足りなくなっていました。社協からの紹介の方、大学のゼミや授業の一環で来てくれた学生、その中には期間を超えて学習支援に来て下さる方があり、とても助かっています。継続している高校生支援者の紹介で新しい高校生も来ていただきました。賀川記念館のホームページで募集していたこともあり、神戸外大の学生の問い合わせがあり、続いている人もおられます。中国人留学生の方の継承は今年も呼びかけていただき、複数参加していただいています。ただ、学生の方々はバイトもあり、就職活動が早くから始まり、最後の1年は卒業論文、博士論文など大きな課題があり、定期的な参加は厳しくなります。社協紹介の支援者の方の中には、ご自分の社会貢献だけでなく、同様の活動を立ち上げたい、そのためのノウハウがほしいと来られる方もあり、対応が難しいと思うこともありました。（小城 智子）

◆外国ルーツの高齢者の介護

在日ベトナム人高齢者に介護事業を利用していただくため、私が介護の資格を取ったのはもう8年も前のことです。介護という未知な世界に新たに挑戦する気持ちでした。関わったはじめごろは正直に言うところ「この仕事が向いてないのでは？大変そうだし」などと考えました。日本に生活が長いと言っても、介護用語に触れる機会はほとんどありませんでしたので、学習会で使われた専門用語が全く理解できませんでした。（たとえば、転倒はこけること。腹痛はお腹が痛いこと。褥瘡は皮膚が荒れること。採血は血の検査のこと等々）私は学習しながら、デイサービスで手伝いをしたので、介護について少し解るようになり、興味が湧いてきました。当時、ベトナム人高齢者は介護サービスの利用をほとんどしていませんでした。在日ベトナム人高齢者にも介護を提供をしたいという気持ちが強くなりました。介護認定や行政の手続きの複雑で細かな決め事を覚えるのは簡単ではありませんでした。介護という仕事の深さに魅力も感じました。

ハナ介護サービスの利用者のルーツはコリア、ベトナム、日本、中国帰国者、華僑です。最初に、それぞれの国の文化・習慣等の違いを配慮しながら介護をしなければならぬことを方針としました。

ヘルパーは利用者宅の初回時に必ず「〇〇さんのやり方を教えてください。」と必ず確認して、その通りにするようにしなければなりません。なぜなら掃除機のかけ方、洗濯物の干し方、調理や味付け方等々は、みんなのやり方が非常に異なっていることを知りました。私が「こんなやり方もあるんだ」ということを知ること、「こうしたら〇〇になるのだ」利用者さんからそのやり方の説明を聞くと「なるほど」と理解することができ、納得したことが多いです。介護とは、その方によりそって支援することではないかと思うようになりました。綺麗に片付けている家があれば、身の周りに物がないと落ち着かない利用者もいます。「よく動くヘルパーが嫌で、ゆっくり家事をしてほしいヘルパーが良い。無口のヘルパーが良い。」等のような要望があります。利用者ヘルパーの性格の相性がとても大事な派遣の要素であります。

今は「ベトナム人だから。日本人だから。」の考えは違うと断言できます。利用者一人一人の背景、性格、個性、習慣、物事に対する受け方・考え方等をできるだけ把握し、それを沿って介護をしなければと思っています。

(ハ ティ タン ガ)

デイサービスセンター ハナの会

◆ 鬼は外！

今年もたくさんの桜が咲き、街の至る所で皆様の心を明るくさせたのではないかと思います。桜の花が散り葉桜の時期となりましたが、今日もハナの会では皆様の笑い声が聞こえてきます。

本日、Kさんのお誕生日会が行われました。Kさんは今月で99歳になり、今日来られた方の中では最年長者です。この日来られた利用者様と共に「ハッピーバースデー」を歌い、一緒にケーキを食べて皆様と共にお祝いをしました。

Kさんが「ここまで元気にこれたのはみんなのおかげ、みんなに感謝」とおっしゃっていたのがとても印象的で、いくつになっても感謝の気持ちを忘れないKさんの生き様に惚れ惚れしてしまいました。

Nさんも「ねーさん、いつまでも元気で！」とお祝いのお言葉を送って、全員であたたかく拍手を送りました。

おいくつになられても、お誕生日をみんなで祝うこの行事は、本当にいつもあたたかい気持ちにさせられます。

これからもたくさんの方のお誕生日をお祝いをして、たくさんの方の笑顔を咲かせる、そんな素敵なハナの会でありたいと思います。 (李 風燕)

グループホームハナ

◆ ハナ桜

4月6日14時天候晴れ。ちょうど花日和。利用者様に声をかけ、準備。キャラバン(車)に乗り込み、私が運転し、李看護師が添乗、利用者様5名の計7名で、いざ出発。帰りの送迎時間もあるため、最短ルートで須磨警察の北川沿いの妙法寺公園へ。

桜が見えてくると、後ろから「桜満開!」という声が聞こえたと思いきや、「私の座っているのが左なので見えない」と一人の利用者様から言われ、運転手は「はい、わかりました。もう少し、待ってください」と答え、しばらくし、桜の見える位置になると、「うわー、満開、綺麗」と言われ、「うわー、うわー」と何度も言われました。他の施設の車もあちらこちらで花見をされていました。一般の方々は歩いて花見をされ、沢山の人がいました。そして、車でゆっくり巡回。あまり人がいないところに車を止め、桜が見えるように戸を開け、「うわー、いっぱいやね」と後ろから聞こえたと思うと、一人の利用者様が「降りたい」と何度も言われました。キャラバン車の一番後方で、車いすに座っていて、人もいなかったため、車いすを路上におろしその場で花見をされました。「うわー、うわー、綺麗」と何度も言われ、興奮されていました。

妙法寺川公園は川の両岸にある桜の名所の公園です。開花時、約400本の桜が500メートルのトンネルを作り、見事です。ウォーキングルートにもなっており、今まさに桜満開です。今年は、私が見るに、いつもより、薄いピンクの桜より、濃い色の桜が多かった様に見えました。今年の桜は、咲き始めて4日目で、朝3分、昼から5~6分で、そして、一気に満開になり、1週間過ぎて散り始めました。早く感じました。

そして、李看護師が見えにくい人の為に、桜の木にとまっている桜の花を一輪、利用者様に渡すと、「うわー、綺麗」と言われ、皆様、満足されて、桜の花からハナへ帰りました。 (山下 孝博)

ふたば国際プラザ

◆世界の遊び広場～韓国の伝統遊び～を行いました

5月4日(水)にふたば国際プラザで「世界の遊び広場～韓国の伝統遊び～」を行いました。KFCで支援している外国にルーツをもつ子どもたちや近所の小学生から中学生くらいの30名が韓国の遊びを楽しみました。今回準備した遊びはユンノリ、コンギノリ、投壺ノリ、チェギチャギ、ピソクチギ、シルトギの6つで、概要としてはボードゲーム、石や矢を投げたりキャッチしたり蹴鞠の様に蹴ったりするゲーム、あやとりといった内容でした。事前に遊び道具のセットを購入したり、神戸韓国教育院に大きなユンノリの道具をお借りしたりして行いました。運営は留学生スタッフの李さんを中心に、ボランティアの方々にも手伝って頂き会場を準備しました。子どもたちは6つの遊びを順番に楽しみ、スタンプラリーの紙にハンコを押してもらい、全て遊び終わった時

に韓国のお菓子をもらって帰るという流れで行いました。アンケートの結果では、どの遊びも同じくらい人気があり、中には遊びが気に入って、長時間ふたばに留まって遊んでいる子どもたちもいました。

ふたば学舎の前の公園には日ごろから子どもたちがたくさん集まって遊んでいます。今回のようなイベントを通してふたば国際プラザを利用してもらい、接点をもっていけたら良いと思います。このイベントで使った遊び道具の一部はふたば国際プラザで保管しているので、いつでも遊ぶことができます。今後「世界の遊びコーナー」を作って地域の子どもたちに日常的に利用してもらいたいと思います。

(大石 貴之)

KFC帰国者新長田交流会

◆帰国者交流会で畑を始めます

ふたば国際プラザの窓のすぐ外にはふたば学舎の畑があって、地域の方々がきれいに管理して、じゃがいもやダイコンなどを育てていらっしゃいます。KFC帰国者新長田交流会の参加者の中には農家出身の方もいらっしゃり、このところ興味深そうに眺めていました。以前には西区の農園で農作業をする活動がありましたが、三年前に土地の都合で終了してから、そのような活動ができずにいました。

ふたば学舎の畑の一区画はKFCがお借りしており、自由に使うことができます。今回それを踏まえ

て、帰国者交流会で畑をやってみることにしました。交流会の時に何を植えたいか聞いたところ、ミニトマトやきゅうりなどいろいろな意見が出ました。近いうちに作業を開始したいと思っています。近頃来られていない方で農業に詳しい二世の方にも連絡したところ、今度見に来るとお話しされていました。これが帰国者交流会に新しい活力をもたらしてくれると良いと思っています。

(大石 貴之)

今後の予定

■2022 年度総会

○5月21日(土)14:00-15:30

於 ふたば国際プラザ

■日本語プロジェクト

○5月29日(日) 事例発表会 於ふたば国際プラザ

■ふたば国際プラザ

○5月28日(土) 15:30-17:30

多文化ひろめ隊養成講座

○5月29日(日) 10:00-12:30

新長田フィールドワーク